

### 第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成27年10月1日 公開授業Ⅱ  
児 童 男子12名 女子9名 計 21名  
指導者 佐々木 裕二

- 1 単元名 書き手のくふうをかんがえよう  
～保健室の先生にインタビューしよう～
- 2 教材名 「ほけんだより」を読みくらべよう (東京書籍)
- 3 単元について

<目標> 二つの「ほけんだより」を読み比べ、それぞれの事柄の取り上げ方や、説明の仕方の工夫を読むことができる。(読イ)

#### <教材の特性と論理的な読み>

目的と構成を同じくしながら、書き手の意図によってそれぞれ違う表現の工夫をしている文章を読み比べることで、取り上げられている事柄と説明の仕方の違いに焦点化して考えることができる。

#### <単元を貫く言語活動>

事柄の取り上げ方や説明の仕方の工夫について、養護教諭にインタビューする。

#### <論理的な読みのための知識・技能>

- 二つの文章を読み比べて考えたことを発表し合い、一人一人の着眼点や感じ方について違いのあることに気づく。
- 語句の役割や語句と語句の関係に注意し、文の構成について考える。

#### <児童の実態（説明文に関して）>

児童は1学期に、「自然のかくし絵」の学習を通して、中心となる語や文を考えながら段落ごとの内容をとらえる学習に取り組み、問いと答えに着目することによって、正しく理解できることを学んだ。しかし、問いと答えを形式的に見つけられるようにはなったものの、書かれてあることに主体的に臨み、意図を読み取るまでには至っていない。

#### <全員が「わかる」ための手立て>

「書き手の伝えたいことは何か」「書き手は、伝えたいことをうまく伝えるために、事柄の取り上げ方や説明の仕方に、どんなくふうをしているか」という観点に留意して読ませることを確実につかませたい。また、比較の際は、視聴覚機器を活用し、データや挿絵の役割についても視覚的に理解できるようにする。

#### 4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
二つの文章を読み比べて、事柄の取り上げ方や説明の工夫を見付けようとしている。	二つの文章を読み比べて考えたことを話し合い、一人一人の着眼点や感じ方について違いのあることに気づいている。(1) 才	語句の役割や語句相互の関係に注意し、文の構成について理解している。(1) イ(キ)

5 単元指導計画（全8時間）

次	時	学習内容	授業の工夫 *ユニバーサルデザインの視点	評価規準 (評価方法)
第一次	1	・身近な「たより」等を提示し、伝えている内容や書き手が工夫している点について考える。 ・教科書の文章を読み比べて、どちらを「ほけんだより」として選ぶか考えるという学習課題を確かめる。	・それぞれの「たより」の伝えたい事柄を考える。(焦点化・共有化)	【関】工夫を見つけるために、二つの「ほけんだより」の文章を意欲的に読み比べようとしている。
第二次	2	・二つの「ほけんだより」を読み比べるための観点を理解する。	・二つの文章を提示し、読み比べる観点がわかりやすくする。(視覚化・共有化)	【読】二つの「ほけんだより」を読み比べる際の観点を理解している。
	3 本時	・二つの文章の共通点と相違点を確かめ、書き手が伝えたいことを読み取る。	・大森先生の意図に帰着させながら内容を理解させる。(焦点化)	【読】二つの文章の共通しているところや違うところを手がかりにして、書き手の伝えたいこととねらいを理解している。
	4	・図表と文章とを関係づけ、図表の効果を考える。	・図表のない文章と比較させることで、図表の効果を考えさせる。(視覚化・焦点化)	【読】図表と文章との関係に着目し、図表の効果を考え、文章に書かれている事柄を理解している。
	5	・二つの文章のそれぞれの説明の仕方の工夫を整理する。	・違っているところに着目させ、書き手の意図を考えさせる。(焦点化)	【読】書かれている事柄や説明の仕方の違いから、書き手の表現の意図を考えている。
第三次	6 ・ 7	・どちらの文章を「ほけんだより」に選ぶかを決め、その理由とともに書く。	・グループでの交流をさせ、自分なりの選んだ理由を説明させる。(共有化)	【読】書き手の表現の意図から、読み手の受け止め方を考えている。
	8	・単元の学習を振り返り、養護教諭へのインタビューを通して、身に付いた力を確かめる。	・養護教諭へのインタビューを通して、書き手の意図や工夫を確かめる。(共有化)	【読】「ほけんだより」における書き手の工夫を理解している。



6 本時の指導

(1) 本時の目標

書かれている事柄や説明の仕方の違いから、書き手の表現の意図を考えることができる。

(2) 論理的な読みのための手立て

「エネルギー」「体温」「だるさ」「ほけん室」等の語句を取り出し、それらの重要語句の役割に着目させながら、それぞれの文章の伝えたいことを読ませる。

(3) 評価規準

A	B	Bに至らせるための手立て
二つの文章の共通しているところや違うところを手がかりにして、自力で書き手の伝えたいこととねらいを理解している。	二つの文章の共通しているところや違うところを手がかりにして、書き手の伝えたいこととねらいを理解している。	二つの文章の「共通点」「相違点」を色分けして提示し、それぞれに着目しやすいようにする。

(4) 本時の展開 (焦点化☆ 視覚化□ 共有化◇ 評価◎)

段階	学習内活動	指導の工夫 (◎評価)	個別の配慮
つかむ 12分	<p>1 前時の想起</p> <p>2 課題の把握</p> <p>(1) 二つのほけんだよりの内容を音読する。</p> <p>(2) 課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     二つのほけんだよりには、どんなちがいがあろう。                 </div> <p>(3) 見通し</p>	<p>◇共通点もあることを確認することで、本時は相違点に注目することを理解させる。</p> <p>☆今日の学習では、「伝えたいこと」が同じでも、取り上げる事柄や説明の仕方の違いによって、違う「たより」ができあがるのが理解でき、保健室の先生にそれを確かめる活動につながることを押さえる。</p>	<p>・「全体で」「一人で」「短く」等、音読へのチャレンジがしやすくなるように設定する。</p> <p>・「食べていますか。」の問いの裏には、「食べて欲しい。」という願いがあることを確認する。</p>
まなぶ 15分	<p>3 課題の解決</p> <p>(1) 一つ目の文章について読む。</p> <p>(2) 二つ目の文章について自力で読む。</p>	<p>☆「エネルギー」の語句に着目させ、朝ご飯の役割を科学的に説明しようとしていることを理解させる。</p> <p>□イラストの意味を確認する。</p> <p>☆「朝ごはんを食べないと」という書き出しに着目させ、一つ目の文章とは説明のアプローチが違うことを前提に読むことを確認する。</p>	<p>・重要語句と考える言葉にサイドラインを引かせ、一つ目の文章の要旨をとらえさせる。(プリントへ)</p> <p>・2つの文章の「共通点」「相違点」を色分けしたものの提示により、アプローチの違いに気づかせる。</p>
いかす 10分	<p>4 読んだことを生かして、実際のほけんだよりについて確かめる。</p> <p>(1) 保健室の先生の意図を考える。</p> <p>(2) 意図を問うための質問を付箋紙に書く。</p> <p>(3) 書いたことを交流する。</p>	<p>◎要点に留意して意図を考えることができる。</p> <p>□視聴覚機器を利用し、書いた内容を互いに分かり合えるようにする。</p>	<p>・伝えたい内容が何であるのか考えさせる。</p> <p>・何度か出てくる言葉に着目させ、なぜその言葉を多く使っているのかを考えさせる。</p>

ま と め る 8 分	5 ふり返る	◇今日の学習で分かったことや感想をまとめさせる。 ◎書こうとしている願いが同じでも、取り上げ方によって違ったほけんだよりになることをまとめることができる。	・書き出しの例を示すなどして書くことへの抵抗感を弱める。
----------------------------	--------	--	------------------------------

〈資料〉

○板書計画

まとめ

書きたいことが同じでも、ちがう取り上げ方で表すこともある。

《二つ目の文章》

《一つ目の文章》

かだい

「ほけんだより」を読みくらべよう

二つのほけんだよりには、どんなちがいがあろう。

○並行読書

- ・食べ物と友だちになろう
- ・朝ごはんを食べよう
- ・じょうぶなからだをつくる
- ・家族で食育